



保育科 教授

澤田 孝二 (さわだ こうじ)

Sawada koji

自己紹介 (プロフィール)	昭和 57 年 4 月より 30 年余り、本学保育科教員として勤めてきました。主として健康に関わる分野の授業を担当し、研究活動も健康に関わる分野を中心に行っています。山梨県での生活が長くなりましたが、出身は島根県です。世界遺産石見銀山の近くの町で生まれ育ちました。
学生へのメッセージ	保育科に入学する学生は、在学中に保育や教育に関する学習を重ね、その多くは卒業後に保育士や幼稚園教諭などの専門職に就きます。専門職に必要とされる力を身につけるために短期大学の 2 年間はとても短いですが、日々の学習の積み重ねを大切に、有意義な学生生活を送ってください。
保有学位	修士 (体育学) 筑波大学
保有資格・免許	小学校教諭二種免許状 中学校教諭一種免許状 (保健体育) 高等学校教諭二種免許状 (保健体育)
研究分野	健康教育学 学校保健 体育学
現在の研究テーマ	学生の健康生活の変遷 - 35 年間の健康生活調査結果の分析 - 学生の不安の愁訴の推移 - 35 年間の不安調査結果の分析 -
主な担当科目	子どもの保健 I 保育内容「健康」「環境」 小児保健学特論<専> 保育研究「健康」「環境」<専> 生活、体育理論
学内での活動	保育科実力養成試験担当 保育科履修成績確認担当
学外での活動	山梨県放課後児童指導員等研修会「安全指導・安全管理」講師(H19 年度～) 山梨学院短期大学教員免許状更新講習ならびに免許法認定講習「保育研究環境」講師(H19 年度～) 山梨学院短期大学教員免許状更新講習ならびに免許法認定講習「保育研究健康」講師(H19 年度～) 山梨県児童館連絡協議会研修会「安全指導・安全管理」講師(H20 年度～) 山梨学院子育て支援センター「折り紙教室」講師(平成 20 年度～) 山梨学院ともまなび講座「子どもの生活習慣と健康」講師(H26 年度)

	東山梨教育協議会保健教育研修会「子どもの健康と生活習慣」講師(H26年度)
所属学会	日本学校保健学会 (S53年～) 日本小児保健協会 (S58年～)

主な職務実績 (抜粋)

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(教員研修会) 山梨県児童館連絡協議会 研修会：安全指導・安全管理 (単独)	H16.3	山梨県内の児童館及び児童センターの児童厚生員を対象に、児童館及び児童センターでの安全指導・安全管理のすすめ方について講演を行った。主として児童館・児童センターで発生している事故の概要、安全管理・安全指導の具体的方法、危機管理体制等について解説した。(山梨県児童館連絡協議会主催、於：県立男女共同参画推進センター)
(教員研修会) 山梨県放課後児童クラブ 指導員研修会：学童保育 における安全指導・安全管理 (単独)	H16.11	山梨県内の放課後児童クラブ指導員を対象に、学童保育における安全指導・安全管理のすすめ方について講演を行った。学童保育中に発生している事故の概要、学童保育における安全管理・安全指導の具体的方法、危機管理体制等について解説した。(山梨県福祉保健部主催、於：県立青少年センター)
(教員研修会) 山梨県放課後児童クラブ 指導員研修会：学童保育 における安全指導・安全管理 (単独)	H19.10	山梨県内の放課後児童クラブ指導員を対象に、学童保育における安全指導・安全管理のすすめ方について講演を行った。学童保育中に発生している事故の概要、学童保育における安全管理・安全指導の具体的方法、危機管理体制等について解説した。(山梨県福祉保健部主催、於：甲斐市敷島総合文化会館)
(教員研修会) 山梨県児童館連絡協議会 研修会：安全指導・安全管理 (単独)	H21.1	山梨県内の児童館及び児童センターの児童厚生員を対象に、児童館及び児童センターでの安全指導・安全管理のすすめ方について講演を行った。主として児童館・児童センターで発生している事故の概要、安全管理・安全指導の具体的方法、危機管理体制等について解説した。(山梨県児童館連絡協議会主催、於：甲斐市敷島総合文化会館)
(教員研修会) 山梨学院短期大学教員免許 状更新講習ならびに免許 法認定講習：保育研究 「環境」(単独)	H25.8	山梨県内の幼稚園教員を対象に、今日の子どもを取り巻く環境、子どもの健康と環境、安全と環境、生活と環境、遊びと環境、身近な物を使った遊び、身近な自然を使った遊び、子どもと自然環境の関わり等について講義した。(山梨学院短期大学保育科主催、於：山梨学院短期大学 21号館)
(教員研修会) 東山梨教育協議会保健教育 部会研修会：子どもの 健康と生活習慣(単独)	H26.8	山梨県東山梨地区の小・中学校養護教諭を対象に、心身の健康に関わる主な生活習慣、子どもの睡眠習慣の現状、子どもの食生活習慣の現状、子どもの運動習慣の現状、親の生活習慣と子どもの生活習慣の関係、健康意識・生活習慣・健康状態の関係、質の良い睡眠・調和のとれた食事・適度な運動の重要性等について講義した。(東山梨教育協議会主催、於：山梨市役所会議室)
(教員研修会) 山梨学院短期大学教員免許 状更新講習ならびに免許 法認定講習：保育研究 「健康」(単独)	H27.8	山梨県内の幼稚園教員を対象に、今日の子どもの発育発達、心身の健康、生活習慣や安全の現状と課題、発育発達の助長、健全な生活習慣の形成、安全能力の育成、運動遊びの実践等について講義した。(山梨学院短期大学保育科主催、於：山梨学院短期大学 21号館)

主な教育研究業績 (抜粋)

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
---------------------	-----	----------------	----

<p>短期大学学生の運動実践に影響する要因の分析（共著）</p>	<p>H24.3</p>	<p>山梨学院短期大学研究紀要 32 卷</p>	<p>運動への取り組みの回答結果に基づいて短期大学学生を運動群と運動不足群に分け、過去の運動歴、運動への関心、健康への関心、心身の状態、生活行動・習慣の状態、健康生活全般の状態、自覚疲労度、ストレス度、生きがい度、性格特性、学業成績のスコアに違いがないかを分析した。その結果、運動歴、運動や健康への関心が運動実践につながっていることや、疲労やストレスの軽減、健康生活や生きがいに運動実践が効果をもたらしていることが明らかになった。（論文の全般を担当）</p>
<p>短期大学学生の疲労の愁訴と健康生活の関わり分析（共著）</p>	<p>H24.3</p>	<p>山梨学院短期大学研究紀要 32 卷</p>	<p>短期大学学生を対象として自覚疲労、精神疲労、健康生活に関する調査を実施し、学生の自覚疲労および精神疲労の愁訴、心身の健康、生活行動・習慣の状態、健康生活全般の状態を把握するとともに、疲労の愁訴、心身の健康、生活行動・習慣が相互にどのように関連しているのかを分析した。その結果、生活行動・習慣の状態が良好である者ほど心身の状態も良好な傾向にあること、自覚疲労や精神疲労を多く抱える者ほど心身の状態や健康生活全般の状態に問題を抱える者が多い傾向にあることなどが明らかになった。（論文の全般を担当）</p>
<p>中学・高校時代の運動実践が後の健康生活に及ぼす影響（共著）</p>	<p>H25.3</p>	<p>山梨学院短期大学研究紀要 33 卷</p>	<p>短期大学学生を対象として中学・高校時代の運動部活動、現在の運動実践、健康生活の状態などを調査し、結果の分析を通して、中学・高校とも運動部活動を行っていた者ではそうでない者に比べて、現在でも運動への関心が高く、運動のための環境にも恵まれ、日頃からよく運動をする傾向にあること、健康への関心が高く、健康状態も良好な傾向にあること、性格的により積極的で、闘争心が旺盛であり、主体性が高い傾向にあることなどがわかった。（論文の全般を担当）</p>
<p>短期大学生の生活行動・習慣と健康意識、健康状態、性格特性の関連について（共著）</p>	<p>H25.3</p>	<p>山梨学院短期大学研究紀要 33 卷</p>	<p>短期大学学生を対象として、健康生活の状態、性格特性、疲労の有無などを調査し、結果の分析を通して、規則的な生活を送っている者ではそうでない者に比べて、健康への関心が高く、心身の状態も良好で、生きがいのある生活を送る傾向にあること、不規則な生活を送っている者ではそうでない者に比べて、ストレスを多く抱え、自覚症状や精神疲労の愁訴を多くもつ傾向にあること、情緒不安定傾向の者の比率が高い傾向にあることなどがわかった。（論文の全般を担当）</p>
<p>短期大学学生の健康生活の変遷－30 年間にわたる調査結果の分析(1)－（共著）</p>	<p>H26.3</p>	<p>山梨学院短期大学研究紀要 34 卷</p>	<p>短期大学学生を対象として 1982 年より 30 年間にわたって実施している健康生活テストの回答結果のうち、5 年ごと（82 年、87 年、92 年、97 年、02 年、07 年、12 年）のデータを分析した。その結果、喫煙習慣、飲酒習慣、睡眠の状態、食欲、食事の規則性などはいずれの調査年も回答結果が望ましい傾向にある学生の比率が高く、逆に、運動習慣、排便習慣、肥そう度などはもんだ正の多い学生の比率が高い傾向にあった。また、健康生活全般の状態に問題のある学生の比率は近年低下傾向にあることなどがわかった。（論文の全般を担当）</p>

期大学学生の性格特性がスポーツ行動および心身の健康に及ぼす影響（共著）	H26.3	山梨学院短期大学研究紀要 34 巻	短期大学学生を対象として性格特性、スポーツへの取り組み、心身の健康状態、生活行動習慣の状態を調査し、性格特性のスポーツ行動や健康生活への影響の有無を分析した。その結果、情緒が安定し積極的な者ほどスポーツへの取り組みも積極的な傾向にあり、健康生活の状態も良好な傾向にあること、情緒不安定傾向の者ほどストレス度のスコアが高く、生きがい度のスコアが低い傾向にあり、特に情緒不安定で消極的な傾向にある者ほどその傾向が顕著であることなどがわかった。（論文の全般を担当）
短期大学学生の不安の愁訴の推移－30 年間(1982 年～2012 年)にわたる調査結果の分析－	H27.3	山梨学院短期大学研究紀要 35 巻	短期大学学生を対象として 30 年間にわたって実施してきた不安に関する調査結果の分析を通して、疲労や腹痛、頭痛など身体症状に関する愁訴が多い傾向にあること、睡眠や恐怖心に関する愁訴は少ない傾向にあること、不安スコアは、1982 年が 21 点台、1992 年代が 17 点台、2002 年代が 23 点台、2012 年が 17 点台と 30 年間に上昇と下降を繰り返し、近年は低く傾向にあること、不安の愁訴の多い学生の比率は 30 年間に上昇と下降を繰り返し、近年はおよそ 1 割強であることなどがわかった。（論文の全般を担当）
短期大学学生の日常生活習慣と心身の健康および性格特性の関わり分析	H27.3	山梨学院短期大学研究紀要 35 巻	短期大学学生を対象として日常生活習慣と心身の健康および性格特性について調査し、結果の分析を通して、健康的な生活行動・習慣を送っている学生とそうでない学生で、心身の状態、健康生活全般の状態、性格特性、運動量、ストレス度、生きがい度、精神的健康パターン、不安の愁訴、中学・高校時代の運動部活動、自覚症状の愁訴、精神疲労の愁訴など調査したほとんどの項目で違いがみられ、日々の生活行動・習慣の良否が心身の健康など様々な面に大きく影響を及ぼすことがわかった。（論文の全般を担当）
短期大学学生の運動経験および運動意識の推移－30 年間(1982 年～2012 年)の調査結果の分析－	H28.3	山梨学院短期大学研究紀要 36 巻	1982 年～2012 年に短期大学学生を対象として、中学・高校時代の運動部活動の経験、大学入学後の運動への関心や運動実践、健康への関心や健康状態などを調査し、結果の分析を通して、中学・高校時代に組み込んだ運動種目はこの 30 年で上位種目の順位が変動していること、大学入学後に運動習慣をもつ者は 82 年から徐々に減少傾向にあったが、12 年には 82 年のレベルにまで回復していること、健康状態の良好な者は 82 年から徐々に減少傾向にあったが、12 年には最も高率であったことなどが明らかになった。（論文の全般を担当）
学童期の睡眠習慣が後の健康生活に及ぼす影響	H28.3	山梨学院短期大学研究紀要 36 巻	短期大学学生を対象として学童期の睡眠、運動、食事などの生活習慣や健康状態、大学入学後の健康生活の状況を調査し、結果の分析を通して、学童期に規則的な睡眠習慣を身につけていた者はそうでない者に比べて、睡眠以外の生活習慣や健康状態が良好な傾向にあること、大学入学後も規則的な睡眠習慣をもち、他の生活習慣も良好な傾向にあることなどが明らかになった。（論文の全般を担当）
大学野球選手のポジション別にみた身体特性－硬式野球部員の身長・体重・BMI・投打の特性の分析－	H28.3	山梨学院短期大学研究紀要 36 巻	大学硬式野球部員を対象として身体特性を調査し、回答の得られた 216 名分を投手・捕手・内野手・外野手に分け、身長・体重・BMI・投打の特性に違いがないかを分析した。その結果、身長は投手・外野手・捕手・内野手の順で高いこと、体重は捕手・投手・外野手・内野手の順で重いこと、BMI は捕手・内野手および外野手・投手の順で数値が大きいこと、右投げは捕手・内野手・外野手・投手の順で多

			いこと、右打ちは捕手・投手・内野手・外野手の順で多いことなどが明らかになった。(論文の全般を担当)
音楽鑑賞のリラクゼーション効果についての一考察	H28.3	山梨学院短期大学研究紀要36巻	鑑賞する音楽の種類によるリラクゼーション効果の違いを明らかにするために、フルート演奏、ピアノ演奏、吹奏楽演奏、合唱の4種類の音楽の鑑賞中の皮膚電気反射(GSR)の測定、観賞後のリラクゼーション効果に関する質問紙調査を4名の被験者に対して実施し、リラクゼーション効果を生理学および心理学的に捉えようとした。結果の分析を通して、音楽の種類により皮膚電気反射の出現状況や質問紙の回答に違いがみられ、4種類の中ではフルート演奏が最もリラクゼーション効果が高いと考えられることなどが明らかになった。(論文の全般を担当)

YGJC201705101345